

超神仏習合寺院出現とその社会的背景

—フィリピン・マニラ市の大千寺の場合—

駒沢大学名誉教授 佐々木 宏幹

一 はじめに

一般に「神仏習合」とは日本古来の神道と外来の仏教とが混交・融合する過程において生じたさまざまな現象を言う。神仏習合は神仏混交とも呼ばれ、具体的には今日の日本においても見られるように、同じ家に仏壇と神棚とが祀られていた現象や、初詣でや七五三、結婚式は神社で行ない、葬儀や追善は寺院で営むような慣行をも意味する。

こうした神仏習合は日本に特有の文化現象であり、神と仏の混在は日本人の宗教信仰や宗教意識を解く鍵であるとも見なされてきた。そしてこの現象には、プラス、マイナス両様の評価がなされてきた観がある。

いわく異なる系統の諸宗教に抵抗なく無自覚かつ自由に関わる人びとの宗教意識は、前近代的なそれであり、その種の宗教はレヴェルが高いとは言えないという見解であり、マイナスの評価である。

この類の見解は、キリスト教を含む一宗教が發達した高次の宗教であると見る宗教進化主義の影響を多かれ少なかれ受けた知識人によって示されることが多い。

これにたいして、他の諸宗教との習合はその民族や社会の寛容性や柔軟性を示す証左であり、そのような特色をもっていたからこそ日本はアジアで最も早く近代化を成しとげたのだなどと主張し、この国の文化や宗教のプラス性を誇示する向きも少なくない。

ことにイスラーム教徒のファンダメンタルな行動やイスラエルにおけるユダヤ人とパレスチナ人との血なまぐさい闘争が、国際社会の注目を浴びている昨今、神仏習合や神仏混交の文化がもつ人類的な可能性を論じる傾向が強まってきたようにも見える。

たしかに日本の民族宗教にも、日本に定着する過程において異国の神々を包摂するにいたつ

た仏教にも「目には目を、齒には齒を」のような復讐の思想は欠如していると言えよう。その宗教的性格の今後の可能性は大であろう。

しかし、だからと言ってわが国の神仏習合現象はわが国特有のものであると理解してはたしてよいのであろうか、否である。

他のアジア諸国にも類似の現象が数多く見られるからである。その一つの事例を紹介しよう。

二 大干寺の宗教的性格について

フィリピン共和国の首都マニラ市をほぼ南北に分断するように流れるパシグ川北岸地域は、中国大陸から来住した華人たちの多くが生活する華人社会である。

一九九〇年の統計によると、フィリピンに住する華人人口は約六十五万人であり、総人口六千六十八万人の約一%にあたる。その三分の二(約四十万人)がマニラ華人社会とマニラ首都

圏に住むという。

華人社会はビノンド、トンド、サンタ・クルス、サンニコラスなどの地区に分かれており、これら地区には仏教の寺院と道教の道観がキリスト教（カトリック）の教会やイスラームのモスクと共存している。

仏教寺院として広く知られているのは、トンド地区の信願寺、宿燕寺、大千寺、サンタ・クルス地区の円通寺、普陀寺である。

これら仏教寺院のなかでも、そのユニークな性格ゆえにひとときわ有名なのがトンドの大千寺である。

この寺院は大千寺（仏教）、広澤尊王廟（道教）、そしてエキュメニカル・チャーチ（キリスト教）の三つの名前をもっている。

中国人の宗教は儒仏道の三教であるとよく言われたが、ここでは仏道基の三教である。いや実際にはイスラームの神も祀ってあるから、仏



大千寺全景

道基回の四教であるということになる。

このユニークで奇妙な宗教施設の創始者は蘇超夷（一九二七年生）である。彼はみずからを“大千宏一法師”と名乗っている。

大千寺のユニークさは、その建物の形に表れている。それは円形のコンクリートづくりで二階部分は吹き抜けになっており、天井はゆるやかな円錐形をなし、中心に円形のガラス張り窓があるというものだ。

蘇によると廟の形は宇宙を表現するとともに、土^サ星^{ダイ}を象徴するともいう。

正面玄関を入ると、ホール中心には八卦図形の大理石製大型噴水があり、高く噴き上げる何条もの水柱に七色の光線が反射するようになっている。

正面奥には半円形の壁面を背に、六十五体の神仏像が上中下三段に配列された六十五本の大理石製円柱上に安置され、各神仏像の脚下から



月曜日の集団儀式

は冷水が噴きだし、円柱を伝って流れ下るようになっている。

神仏像の大きさは約二十五センチメートルほどで、精巧なつくりである。

このパンテオン（神仏の配列）は仏教系、道教系、キリスト教系およびイスラームから成っていることは一目瞭然だが、諸神仏像が漫然と並置されている訳ではない。

大千寺祭壇の諸神仏像

上位	中位	下位
隼年大歳	サント・ニーニョ	聖アンソニー
太陽星君	太乙救苦天尊	福德正神
南斗星君	註生娘娘	九天司令灶君
下元水官大帝	天与財神爺	文昌帝君
中元地官大帝	純陽仙師	青山靈王
与元天官大帝	海星菩薩	斗海母君
九天玄女	王母娘娘	清公活仏
アツラー	水提尊王	白蓮仏

イエス・キリスト	孚佑天君	伽藍尊王
阿弥陀仏	玉皇三太子	魁星爺
釈迦尊仏	広澤尊王	海宮菩薩
玉皇大帝	聖王娘	李羅車三太子
観世音菩薩	関聖夫子	風雨二神
靈宝天尊	包王公	玄境元師
道德天尊	地藏王菩薩	殷靈官
元始天尊	聖母マリア	地下財神
燃燈古仏	清水祖師	開基思生
人間財神	達法師	鬼谷仙師
南極長生大帝	天与聖母	五谷仙師
北斗星君	盤古尊皇	準提仏母
大陰星君	聖マーチン	北極紫微帝君
ブラックナザレン		聖ジュード
二十二体	二十一体	二十二体

最上段の中心は仏教の中核釈迦尊仏と阿弥陀仏、その左側に道教の最高神玉皇大帝、右側にキリスト教の神の子イエス・キリストおよびイ



司式中の蘇法師

スラームの神アッラーが祀られているからである。

もともとイスラームは偶像を認めないので、アッラーは神像ではなく神座があるのみで、そこにIslamismと記してある。

半円形の祭壇の中央部には儀礼用の机があり、机上には香炉、燭台、油灯、鈴、鉦などが置いてあり、正面に向かって右側に鑿子、左側に木魚があつて儀礼のときに用いられる。吹き抜きの二階には右側にイエス・キリストの、左側に聖母マリアの等身大の像がそれぞれ一階ホールを見下ろすように立っている。

この両者は大千寺と信者の守護神であるときれる。

またホール一階のあちこちに大小さまざまな金色に輝く幼児姿の神像が立っているが、これらは土星霊 (Saturnian Spirit) と呼ばれ、蘇法師の守護神である。

中国福建省出身の両親の下にマニラ・トンドに生まれた蘇は、小学生の九歳のとき土星靈と出会い友となった。土星靈は永遠に幼児形をしており、蘇が物事を訊くと啓示を与えてくれるという。彼は靈能者の法師なのである。

彼のところには毎日健康と商売繁盛の祈願を依頼する人びと、先祖供養の依頼者、風水や運勢判断の希望者、病気に関する相談者などが訪れる。現在の信者二万人を自称する。

毎週日曜日午前、二度にわたり集団儀礼が行なわれ、大勢の信者がホールに参集する。

導師の蘇はカトリックの大司教のようなガウン姿で現れ、祭壇上の神仏に向かって信者とともに『宇宙経』を誦する。

鑿子と木魚のリズムに合わせて声高に唱えられる経文は「宇宙三光天降地 三光旋轉日月星
南無淨宿宇宙仏 月夜分明天作主 南極北極
各磁業 南無阿弥陀仏 自転公転地本身 好歹

分野為人丁 南無宝光自在仏 為非作惡神鬼知
行善救人無人欺 南無善住智慧仏 父生母養
共教育 育其子孫好生活 南無光明觀世仏：」
のように続く。

日曜礼拝が終ると蘇の説教が始まる。時事問題の解説から入り、他人への慈悲心を説き、孝養を強調し、平和の大切さを語る。

六十五体もの礼拝対象について、彼はこう説明する。「本来神や仏に名称はない。宗教にも名称はなかった。名称を作ったのは人間である。生まれたばかりの赤子に名前がないのと同じである。道教徒は四千七百年前に彼らの信仰を道教と呼び、二千五百年前に仏教徒はその宗教を仏教と名づけ、カトリックは二千年前に彼らの宗教をカトリシズムとした。この寺は宗教の原初・本来の立場に還って、あらゆる宗教の統合を図ろうとしている」と。

カルト的なこの習合宗教は今後どのような歩



治病儀礼中の蘇法師



宇宙經

宇宙三光天降地 三光旋轉日月星
南無淨宿佛宇宙

日夜分明天作主 南極北極各磁榮
南無阿彌陀佛

自轉公轉地本身 好夕分野爲人丁
南無寶光自在佛

『宇宙經』

みを進めるのだろうか。

三 大千寺出現の社会的背景考

大千寺のような寺院が出現し、多くの信者や依頼者を集めるにいたったのは、住職の蘇超夷の宗教的才覚のしからしむるところであるが、決してそれだけの理由からだけではあるまい。

主な理由・背景に現代フィリピンの社会—宗教的な状況があるはずと私は考える。

現在フィリピンの総人口の八五%がカトリック教徒であり、少数ではあるがイスラーム教徒もいる。総人口の1%を占めるにすぎない華人社会の人びとは、圧倒的なカトリック文化のただ中に生きている。彼らはカトリックと付き合いい、仲良くしなければ生存も覚つかない。現に若い世代にはカトリック信者が増えており、カトリックのフィリピン人と結婚するケースも少なくない。

私が調査したオンピン街の一華人家族の場合、祖父母と両親が仏教と道教を信奉しているのにたいして、子供四人兄弟のうち長男を除く三人がカトリックの洗礼を受けていた。注目すべきは、カトリック信者になった三人兄弟が受洗後も仏教と道教を信奉していると告白したことがある。

実際カトリック信者になっても寺廟への関わりをもつ華人が多いと言われる。

こうした華人社会の宗教の実情、つまり個人が仏・道・基に関わる現状は、大千寺の祭壇構成によく重なる。

また、フィリピン人社会には、キリスト教の聖者崇拜と結びついた信仰治療師たちがカトリック民衆の信仰を集めている。これら治療師たちは聖者の力を直接用いて治病行為を行なう点で、霊能者と言えよう。

土星霊の力を用いて病人に対する蘇法師は、

性格的にカトリックの信仰治療師たちに重なる。

蘇法師のユニークな大千寺は、まさにフィリピン社会のなかに生きる華人の社会—宗教的実情に合わせた宗教的役割をはたしていると見ることができよう。

世界の宗教には「アッラーの外に神なし」と主張するような厳格な一神教もある。しかし教義のレヴェルでは厳格な一神教も、民衆のレヴェルではカトリックのように、伝播した地域や社会の宗教的習俗・慣行とダイナミックに複合化していることが少なくない。

宗教は生きものである。理念を失っては元も子もないが、理念にこだわりすぎたのでは、人びとの多様なニーズに対応できまい。

多様な宗教的ニーズに応えるためには、観念的な教義とそれに基づく行持が必要であるし、葬祭も祈禱も、場合によっては治病儀礼も欠かせない。

そうした多様で柔軟でダイナミックで、したたかな宗教形態が習合宗教の特質ではあるまいか。そしてそのような宗教形態を生みだす宗教風土は、ひとり日本だけではなく、広く東・東南アジアに存在することに改めて注目する必要があると考える。大千寺はその顕著な一事例であると言えよう。